

北海道の 超塩基性岩地域の植物



キクバトラノオ—咲来



クマユリ—和寒町

蛇紋岩地域では狭葉となり、むしろ花つきがよくなるなどいろいろ変化が多い。

試みに本道の地質図を開いて見ると、ほぼその中央を北から南に走る超塩基性岩地域に気がつくであろう。この地域には蛇紋岩および橄欖岩などをふくめた、いわゆる超塩基性岩が諸所に露出・崩壊して、そこに発達した植物群落に特有な相を実現せしめている。

Mgを多く含有して植物のためにはむしろ貧栄養な地質であっても、ここには高地性植物の下降、遺存種、固有種などを種々ふくめた植物群落、しばしば高山帯や原生花園のお花畑に劣らない美しいお花畑として、われわれの眼をみはらせるものがある。超塩基性岩地域の植物は植物と地質との関係を特に顕著に示すものであり、それがため相当以前から関心と興味を持って研究せられ、本道の場合もこの調査研究が進められていたのである。

本道における当該地域の植物については一九一九年、西田——夕張岳の植物分布がその発端となり、館脇、小森、三角、野坂、高橋などにより天塩ヌプロマツポロ沢

白鳥山、アポイ—ホロマン岳などの植物——アカエゾマツ林の群落の研究され、豊田——「超塩基性岩地域の植物」により本道における当該地域植物が概括的に紹介されたが、私もこの方面の興味は持っていたのでこれらの諸地域に一応足を踏み入れたが、さらに道央——道北部に残された地域の植物を昭和三十三年以来探究し、本道における当該全地域としてのその植物相と価値を認めたいと考えている。

私が調査した地域は必ずしも高地帯とは限らないで、標高二〇〇〜五〇〇mの低山や丘陵などもその対照としたのは、標高七〇〇m以上の山地と同じ要素をもって構成せられた美しい植物群落が見られて、興味津々たるものを感じたからである。このような現象を看過ごしては全道の超塩基性岩地域植物のすべてを知ることができないのである。幸い旭川営林局計画課調査係、土壤係、関係各営林署および担当区の方々には年々協力していただき、道科学研究費を受けて調査研究を進めてきたことと心から感謝している次第である。

道央・道北にひろがる超塩基性岩地域、すなわち神居山から北上して旭川北方の地域を経て上音威子府に至る地域のうちから、代表的な植物群落の観察される部分をとりあげて列記したいと思う。

(一) 神居山と神居古潭周辺の山地

古来、名勝地・神居古潭の釣橋付近の蛇紋岩地域はホソバエゾノコギリソウの基準産地として知られ、ここには木本としてノリウツギ、ツタウルシ、エゾシモツケ、ホザキノナナカマド、ヤマブドウ、ノブドウ、ドクウツ

ギなど、シダ類および草本としてはイワデシダ、ミヤマワラビ、稀れにはクモノスシダ、ミヤマイワデシダなど、アキカラマツナガボノシロワレモコウ、キジムシロ、クサフジ、エゾヨロイグサ、ツリガネニンジン、エゾカワラマツバ、ヤナギタンポポ、コガネギク、エゾノコンギク、チシマラッキョウなどが見られる。四十年も以前にはヒメトクサやイワキンバイが生えていたものである。

神居古潭の南方、神居山(標高六四五m)の山頂に近い蛇紋岩地域ではオオタカネバラ、マルバシモツケ、チシマフウロ、エゾアザミ、クマイザサなどを見るにすぎない。神居古潭に近く、神居山北麓に当る部分(標高二〇〇m)の蛇紋岩地域には、つぎのような構成要素の植物群落がくりひろげられている。(植物名配列順序不同)

木本ではミズナラ、カシワ、シラカンバ、ヤマハンノキ、ケヤマハンノキ、ヤマゲソ、ホオノキ、キタコブシ、エゾイチゴ、アズキナシ、ナナカマド、オオタカネバラ、エゾシモツケ、エゾヤマザクラ、マルバシモツケ、イヌエンジュ、エゾヤマハギ、ユミ、ニガキ、ツタウルシ、ヤマウルシ、ヒロハノヘビノボラズ、ノリウツギ、ヤマブドウ、ハリギリ、オオバスノキ、ハナヒリノキ、ムシカリなど。

シダ類および草本ではシシガシラ、トラノオシダ、クジャクシダ、イワウサギシダワラビ、オオヤマフスマ、アキカラマツ、ヒメイチゲ、チシマフウロ、ヒメハギ、クサフジ、キジムシロ、ミツバツチグリ、ヤマブキシウマ、エゾノシモツケソウ、コンテンシラトリオトギリ、アイヌタチツボスミレ、ミヤマスミレ、ヒメナツトウダイエゾヨロイグサ、ツマトリソウ、フデリンドウ、ツルリンドウ、ツリガネニンジン、エゾアザミ、エゾノサワアザミ、エゾノタカネニガナ、コガネギク、ホソバコウゾリナ、ヨツバヒヨドリ、クマイザサ、ホガエリガヤ、コメガヤ、ススキ、クルマユリ、マイズルソウ、ショウジョウバカマ、エゾカンゾウなど。

(二) 台場附近

神居山麓の蛇紋岩地域の東方に当る台場と称する地域にも露出崩壊地(標高二〇〇m)があり、ここに生育して群落を構成している種類をあげれば、次のようである。

木本にはアカエゾマツ、リシリビヤクシン、カシワ、ミズナラ、ヒロハノヘビノボラズ、エゾシモツケ、オオタカネバラ、アズキナシ、ホザキノナナカマド、マルバシモツケ、イヌエンジュ、エゾヤマハギ、オオバノキ、ハナヒリノキ、ミヤマガマズミ

タカネハハコ(アポイハハコ)——和寒町



など。

シダ類および草本にはワラビ、イワウサギシダ、クジャクシダ、トラノオシダ、シシガシラ、ゼンマイ、アキカラマツ、オオヤマフスマ、エゾノシモツケソウ、ヤマブキシウマ、ヒメハギ、ヒメナツトウダイ、クサフジ、エゾアオイスミレ、アイヌタチツボスミレ、アポイタチツボスミレ、エゾイワハタザオ、コクテンシラトリオトギリ、エゾノヨロイグサ、フデリンドウ、オミナエシ、エゾノカワラマツバ、エゾキヌタソウ、ホソバコウゾリナ、コガネギク、

オトコヨモギ、ヨツバヒヨドリ、エゾノサワアザミ、エゾアザミ、ススキ、コメガヤ、ヒエスゲ、エゾカンゾウ、クルマユリ、ショウジョウバカマなど。

(三) 嵐山および近文山

旭川市の西に接し、神居古潭——嵐山自然公園の一環をなす嵐山の一部(標高一〇〇〜二〇〇m)から近文山(二六〇m)にかけて蛇紋岩露出、崩壊あり、ここにも特有な植物群落が見られ、その構成要素として次のような種類をあげることができる。



シラトリシヤン——和寒町

木本としてはカシワ、ミズナラを主としてそのほかシラカンバ、アズキナシ、ヒロハノヘビノボラズ、エゾシモツケ、ホザキノナカマド、エゾイチゴ、オオタカネバラ、エゾヤマハギ、イヌエンジュ、ヤマウルシ、コマユミ、ハナヒリノキ、オオバスのキ、稀れにアクシバおよびミヤマガマズミがある。

シダ類および草本としてはイワウサギシダ、クジャクシダ、オウレンシダ、トラノオシダ、エゾヒモカズラ、エゾイチゲ、アキカラマツ、フシグロ、ケフシグロ、スイバ、ヤマハナソウ、ヤマブキシヨウマ、キジムシロ、コキンバイ、ナガボノシロワレモコウ、エゾノシモツケソウ、エゾキケマン、ヒメナツトウダイ、エゾノイワハタザオ、クサフジ、オトギリソウ、アイヌタチツボスミレ、エゾヨロイグサ、ツマトリソウ、フデリンドウ、ツリガネニンジン、エゾノカワラマツバ、チョウセンカワラマツバ、エゾアザミ、エゾノサワアザミ、ホソバコウゾリナ、コガネギク、コメガヤ、ススキ、スカボシソウ、稀れにフタバツレサギなど。

嵐山(弓成山)より北方半面山へ峻線沿いに諸々露出地帯を見るが、小部分的なものに過ぎず、カシワ、ヒロハノヘビノボラズ、オオタカネバラ、コマユミ、アイヌタ

チツボスミレ、コガネギク、ススキなどを生ずるのみ。

(四) 白鳥山およびその附近

旭川市の北西方に当る蛇紋岩地帯は白鳥山(七七六m)およびその東、南斜面、雨竜川流域の多度志村、幌加内市街地の周辺これらに平行して南北に走る地域(標高三〇〇m)は温根別村(二〇〇〜三〇〇m)に至り、また、南東方に延びて和寒町西部(二〇〇m〜五〇〇m以上)から江丹別村(標高三〇〇〜四〇〇m)におよぶ相当広



ホンバノエゾノコギリソウ―神居古潭

イワウサギシダ―近文山



範囲に露出崩壊が見られる。

白鳥山および和寒町西部山地においては山頂に近く、そのほか多くの地域においては、いづれも二〇〇〜三〇〇mの低山、丘陵に相当するような場所、山道に面した斜面にすらも特異な植物群落が美しいお花畑を作っている。

このような地域には木本ではハイマツ、アカエゾマツ、リシリビヤクシン、キツネヤナギ、エゾノバツコヤナギ、シラカンバ、カシワ、ミズナラ、マルバミズナラ、ケヤマハンノキ、ヤマハンノキ、ヒメヤシヤブ

シ、ツノハシバミ、ヒロハノヘビノボラズ、マルバシモツケ、エゾシモツケ、ナナカマド、タカネナナカマド、アズキナシ、オオタカネバラ、エゾヤマザクラ、稀れにヤエノエゾヤマザクラ、ホザキノナナカマド、エゾイチゴ、イヌエンジュ、ヤマウルシ、ツタウルシ、エゾヤマハギ、ホオノキ、ドクウツギ、イヌツゲ、アカミノイヌツゲ、コマユミ、フイリコマユミ、ミネカエデ、ツルシキミ、コシアブラ、ハリギリ、ミヤマホツツジ、コケモモ、オオバスのキ、イソツツジ、ハナヒリノキ、ムシカリ、ミヤマガマズミなど。

シダ類および草本としてはイワウサギシダ、イワデンダ、コタニワタリ、クモノスシダ、ワラビ、クジャクシダ、チャセンシダ(本州産に比しはなはだしく小型)、ゼンマイ、ヤマドリゼンマイ、エゾヒメクラマゴケ、ヒカゲノカズラ、オオヤマフスマ、コバノツメクサ、タカネナデシコ、エゾトリカブト、ヒメイチゲ、エゾイチゲ、アキカラマツ、クロバナハンショウズル、ウメバチソウ、クサノオウ、ジャニンジン、エゾノイワハタザオ、ヤマブキシヨウマ、コキンバイ、キジムシロ、エゾノシモツケソウ、チングルマ、ナガボノシロワレモコウ、ノウゴイチゴ、クサフジ、チシマフウロ、ヒメナツトウダイ、コクテンシラトリオト

ギリ、アイスタチツボスミレ、アホイタチツボスミレ、エゾアオイスミレ、オオバキスミレ、カマヤリスウ、エゾヨロイグサ、イブキゼリ、カワラボウフウ、オオカサモチ、マルバサイコ、ゴゼンタチバナ、ツマトリソウ、エゾリンドウ、チシマセンブリ、キク、パトラノオ、エゾリトラノオ、イブキジャコウソウ、エゾキヌタソウ、ツルア



テシオコザクラ—咲来

リドオシ、エゾノカワラマツバ、チヨウセシカワラマツバ、シラトリシヤジン、ホンパノシラトリシヤジン、シラゲシラトリシヤジン、ヨツバヒヨドリ、コガネギク、オトコヨモギ、オオヨモギ、エゾノサワアザミ、エゾアザミ、ナガバキタアザミ、ホソバコウゾリナ、センボンヤリ、エゾタカネニガナ、タカネウスユキソウ（アホイハハ

コ）、クマイザサ、コメガヤ、ススキ、ヒメノガリヤス、エゾカンゾウ、クルマユリ、カタクリ、ヒメアマドコロ、マイズルソウ、シロウマアサツキ、ショウジョウバカマ、タチギボウシ、オオバギボウシ、ヒオウギアヤメ、ハクサンチドリ、キソチドリなどがあげられる。

(五) 恩根内より北上して上音 威子府にいたる蛇紋岩地域

この地域は標高四〇〇〜五〇〇mの山地であるが、三〇〇m程度の場所に露出崩壊地が現われ、特有な植物群落を展開せしめている。主なる植物の種類は少数のものを除けば、関東別、ペンケ・パンケ山および知駒山のそれに共通している。

木本にはトドマツ、アカエゾマツ、ハイマツ、リシリビヤクシン、ミズナラ、ヤマハンノキ、ケヤマハンノキ、ダケカンパ、ヒロノヘビノボラズ、アズキナシ、マルバシモツケ、エゾシモツケ、タカネナカマド、エゾヤマザクラ、ホザキノナナカマド、エゾイチゴ、ミネカエデ、アカミノイヌツゲ、ヤマウルシ、ツタウルシ、ツルシキミ、コシアブラ、ハナヒリノキ、コヨウラクツツジ、オオバスのノキ、ムラサキヤシオツツジ、ムシカリなど。

シダ類および草本としては、コタニワタ

リ、イワウサギシダ、ミヤマワラビ、クジヤクシダ、ワラビ、ゼンマイ、オクエゾサイシン、コバノツメクサ、ヒメイチゲ、エゾイチゲ、アキカラマツ、ウメバチソウ、ヤマブキシユウマ、キジムシロ、ミツバツチグリ、チングルマ、コキンバイ、ナガボノシロワレモコウ、チシマフウロ、ヒメナツトウダイ、オトギリソウ、アイスタチツボスミレ、アホイタチツボスミレ、エゾアオイスミレ、エゾヨロイグサ、イブキゼリ、ゴゼンタチバナ、ツマトリソウ、テシオコザクラ、エゾリンドウ、フデリンドウ、キクバクワガタ、エゾミヤマトラノオ、ヨツバヒヨドリ、コガネギク、オトコヨモギ、エゾノサワアザミ、エゾアザミ、ナガバキタアザミ、ホソバコウゾリナ、エゾノタカネニガナ、クマイザサ、コメガヤ、ヒメノガリヤス、ヌカボシソウ、エゾカンゾウ、クルマユリ、カタクリ、マイズルソウ、シロウマアサツキ、ショウジョウバカマ、ハクサンチドリなどが見られる。

×

以上、各地域の植物群落の構成要素を比較すれば、自ずからそれぞれの地域における植物相の移り変わりや、特徴が了解できるであろう。

本道の南から北にわたる超塩基性岩地域の植物相を比較検討するに、アホイスプリ

ホロマン岳、夕張岳および日高管内に散在する小区域においては、各地域がそれぞれの特異性をはっきり打ち出しているのは衆知のとおりである。

しかし、神居山より北上して上音威子府さらに知駒山までの当該地域においては、各地域のそれぞれの特徴は認められても、群落を構成要素の移り変わりや特殊性等の点から相互の間に深い関連を持っており、さらに垂直分布的にもいろいろな変化が見られる。これら各地域の一つ一つを検討するときは、特に珍種、稀品を含まなくとも総合的な見地からは、たとえ貧弱な地域であっても全地域との関連性から考えるならば、それぞれの個々の地域も別個な重要性和深い意義を持つことになるということが出来る。

このような純植物学的観点に立つて本道の超塩基性岩地域を律するならば、それが産業的価値はともかくとして、全地域が永久に存続せしめるための積極的な保護対策が考えられなければならないのではない。しかし、実際にはそれが困難であるならば、当該地域の植物相の意義と価値をじゅうぶん認識させ得る最大限の区域としての、それぞれの地域の永久存続を計るべきだと考えるわけである。

(北海道教育大学旭川分校教授)